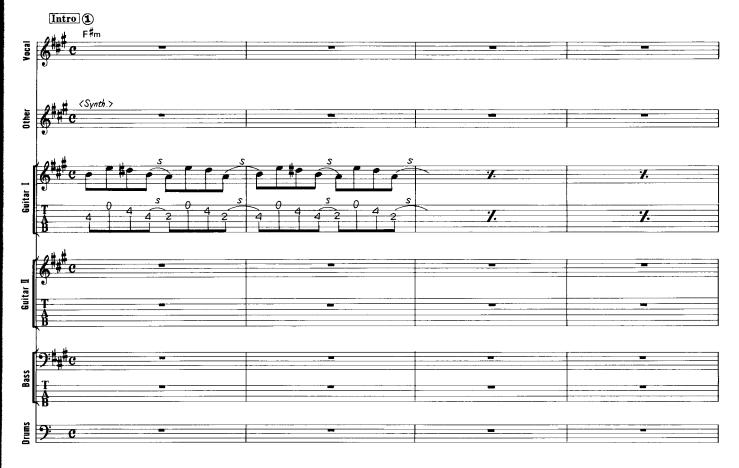
DON'T TELL ME YOU LOVE ME

ドント・テル・ミー・ユー・ラヴ・ミー(炎の彼方 Words & Music by Jack Blades

衝撃の1stアルバム『DAWN PATROL』の1曲目、印象的なギター・アルペジオから曲はスタート。これはクリアなサウンドにコーラス系のエフェクターをかけて弾いているモノだ。スライドのテクニックを上手く使い、リズムの乱れがないようにプレイしよう。イントロ1の5小節目から他の楽器もスタート。ここはユニゾンのリズムで、リズムのキメを弾いており、しっかりと合わせるようにしよう。△のバッキングではシンセも使われているが、これはストリングス系で、少しアタックの強いサウンドにしてある。ベースはシンプルな8ビートのリフを弾いている。少しアップ・テンポ気味の曲なので、リズムがモタらないように、安定したリズムでプレイしよう。⑤からはギター・ソロだ。3小節目は

ピッキング・ハーモニクスのテクニックを使っている。ここは1音半のチョーキングであり、音程には気をつけてしっかりチョーク・アップをしてほしい。②の5~6小節目はトリル・フレーズ。ここはプリングとハンマリングを素早く繰り返す。Eのギター・ソロはピッキング、フィンガリング共に、かなり高度なテクニックが要求されるスピード感のあるフレーズだ。初めはゆっくりとしたテンポでしっかり弾けるように練習しよう。①のエンディングでもギター・ソロが登場。ここでは2本のギターのハーモニクスになっており、リズムをしっかりと合わせて弾くようにしたい。





Vaca

Other O

itar I

tar II

3

Race

Ě

_

ā

Guitar

9

Ì













Yocal

Yocal

Other

Guitar I

Guitar 🎚

Bass

Drums

Other

Guitar I

Guitar II

Bass

Drums







ٳ

Š

1 ...

F ------

Š







, ooo

÷ i

Guitar I

Guitar II

.

7

- 110

•







Vocal

Other

Guitar I

Guitar I

Bass

Julia

123

Other

I making

:







Vocal

0ther

Guitar I

Guitar II

Bass

Drums

Juca

1

_

Ē

á







Bass

Vocal

Other

Guitar I

Guitar 🏻

5

Vocal

je je

JE S







Yocal

Other O

Guitar I

Guitar I

Bass

SING ME AWAY

シング・ミー・アウェイ Words & Music by Jack Blades and Kelly Keagy

1stアルバム、『DAWN PATROL』からの選曲。ツイン・ギター・バンドならではのギター・アレンジが光るナンバーだ。まず、IAIでのギター・リフだが、メインは、基本的にギター1と考えてよいだろう。これに対し、ギター2では、小節頭のコード感とベースのA音をフォローするようなアンサンブルになっている。尚、4小節目のD(on A)というコード・ネームは、キーボードに従って付けたもの。ギター2のプレイを優先するなら、F#m(on A)となる。音の濁りが気になる場合は、ギター2の2弦2fを3fに置き換えるか、キーボードのD音をC#音に変更することによって対処しよう。また、©でのバッキングは、ギター1こそ、IAIと同様のプレイだが、ギター2は、ベースのA音をフォローすることに徹しているのが興味深い。恐らく、ヴォーカルのバックでのプレイということを考慮し、ギター・サウンドが厚くなり過ぎることを避

けたのだろう。尚、 \triangle ~ \bigcirc でのベースのプレイは、基本的に同じパターンが続くのだが、リハーサル・マーク毎に、ニュアンスの面で若干の変化が付けられている。 \triangle と \bigcirc は、総ての音符をテヌート気味に、一方、 \bigcirc じな各小節最後の音符のみテヌート、それ以外をスタッカート気味にプレイすると雰囲気だ。サビの \bigcirc 「」、そしてエンディングの \bigcirc では、ツイン・ギターのハモリが決め手となる。 \bigcirc 「」、 \bigcirc でのそれは、いわゆる 3度ハモリなのに対し、 \bigcirc のアルペジオは、コード・トーンを基本にしたハモリである点を押さえておきたい。 \bigcirc のギター・ソロは、ジェフによるプレイ。 3小節目の 2弦14 f のチョーキングは、中指で。また、4小節目、8小節目のフレーズは、ラフに弾かずに、きっちりとビートに乗せたプレイを心掛けたい。さほど、速いプレイではないので、焦らずに整然としたピッキングで臨んでみよう。



© 1982 by KID BIRD MUSIC
All rights reserved. Used by permission.
Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan.



itar I

Buitar II

Rass

Dringe

Varia

Other

T and in

200in

9,00

.







Vocal

Other

Guitar I

Guitar 1

<u>.</u>

Bass

Yocal

ther

_

Cuitar







Yocal

Bass

Yocal

Other

Guitar I

Other

Guitar I

Guitar I

Bass







۶

Other

Guitar I

itar II

Bacs













Ē

tar I

3

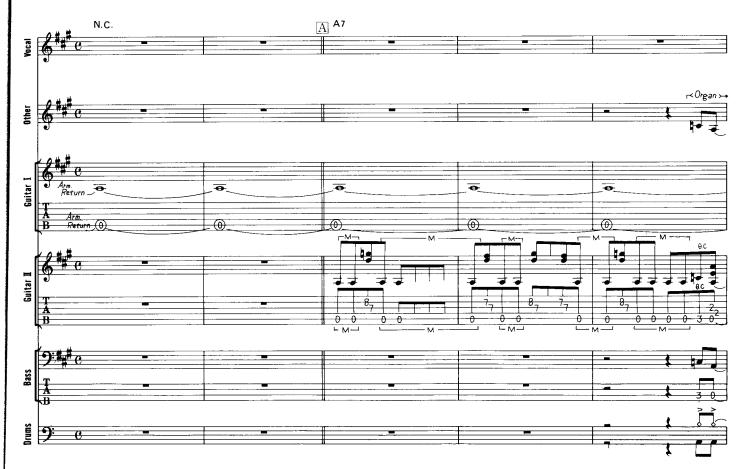
Bas

(YOU CAN STILL) ROCK IN AMERICA

ロック・イン・アメリカ Words & Music by Jack Blades and Brad Gillis

2ndアルバム『MIDNIGHT MADNESS』のトップを飾るこの曲は、彼らの代表曲であるのは勿論のこと、ジェフが8フィンガー奏法を初めて披露した、という点で、ロック・ギター史に残るナンバーでもある。では解説に移ろう。まず、Aのギター2のリフは、5 弦開放と2、3 弦による和音の弾き分けがポイントになる。7 f を人差指、8 f を薬指で押さえるのが妥当かと思うが、その際、人差指の先端で4 弦、腹で1 弦に触れ、余弦のノイズを防ぐようにしよう。Eから©は、ブラッドによるギター・ソロ。E2~3小節間のアームを用いたフレーズは、タブ譜だけではなく、5 線譜もチェックし、音程変化を確認してほしい。また、63小節目のヴィブラートは、いわゆるクリケット奏法。このケースでは、左手でハンマリングするタイミングに合わせて、アームの先端を指でハジくと雰囲気だ。尚、Eの8小節間は、テンポが1/2になるので、

特にドラマーは、リズム・キープに注意しよう。日から」は、ジェフによるソロだが、問題は、やはり」の8フィンガー、ということになるだろう。 $1\sim4$ 小節間の指使いは、 $[4\ f=$ 人差指、 $7\ f=$ 小指、 $12\ f=$ 人差指、 $14\ f=$ 中指、 $16\ f=$ 薬指、 $19\ f=$ 小指($12\ f$ 以上は右手)]となる。5 小節目以降は、フレーズのパターンにより、 $[2\ f=$ 人差指、 $5\ f=$ 小指、 $10\ f=$ 人差指、 $12\ f=$ 中指、 $14\ f=$ 率指、 $17\ f=$ 小指($10\ f$ 以上は右手)]と、 $[4\ f=$ 人差指、 $7\ f=$ 小指、 $12\ f=$ 人差指、 $14\ f=$ 中指、 $16\ f=$ 率指、 $19\ f=$ 小指($12\ f$ 以上は右手)]のフィンガリングを使い分けることになる。何はともあれ、右手でのフィンガリングに慣れることが重要。そんなわけで、まずは、比較的易しい $1\sim4$ 小節間のパターンを繰り返し、右手でのハンマリング、プリングの感覚を身に付けることから始めよう。



© 1983 by KID BIRD MUSIC

All rights reserved. Used by permission.

Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan.



Other

Vocal

Yocal

Other

Guitar I

Guitar I

Bass

Drums

Guitar I

Guitar I

Bass







Vocal Other Other TAB E Drums S Yocal Office

Guitar I Guitar I

Brans Bass







ŧ

Puitar I

iter I

å

_

Ë

1 ...4:

.....

Ē













_

uitar I

uitar II

.

.

-

Varia

je

-

Puibar II

.

a min







•







Vocal

Other

Guitar I

Guitar I

Orums Bass

Yocal

0ther

Guitar I

Guitar I

Bass

Drag









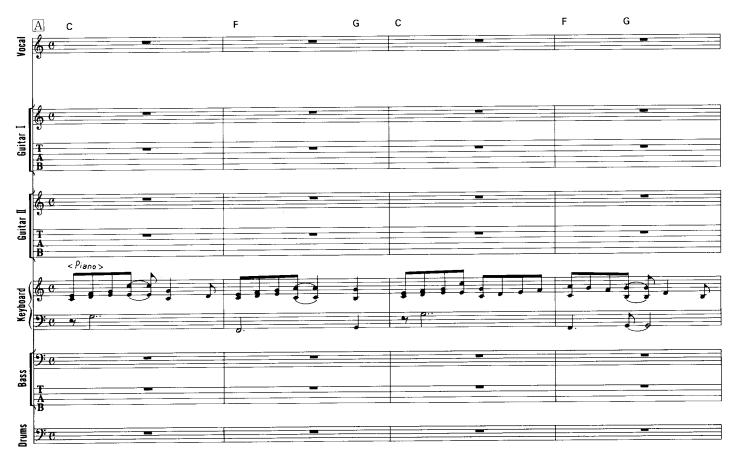


SISTER CHRISTIAN

シスター・クリスチャン Words & Music by Kelly Keagy

アルバム『MIDNIGHT MADNESS』に収録されたこのバラード・ナンバーは、彼らにとって、初めての大ヒット・シングルとなった。ファンなら御存知の通り、バラードばかりを求めるレコード会社との対立が、バンド解散の要因になったわけだが、そういう意味では、その発端を作った曲とも言えるか…。それはさておき、この曲では、ギターよりも、むしろキーボード類がバンド・アンサンブルの要となる。実際の音源には、ピアノの他に、オルガン、ストリングスの3種類のキーボード・パートがダビングされているのだが、その総てを正確に記譜するのは、バンド・スコアのフォーマットでは、ちょっと不可能。ただ、スコア中の「A~C」、「Jでは、ギター・パートが殆ど休符となるため、これを利用し、ギター・パートの段にオルガン、ストリングスを記譜しておいた。まず、「A|から|C|のピアノだが、この部分では、各音符のサステインに十分注意

したい。サステイン・ペダルを用いる場合は、基本的に左手の符割に合わせるように踏んでみよう。また、弾き始めのテンポにも、十分注意が必要だ。というのも、このテンポ設定を誤ると、回になって他の楽器が入ってきた時に、何ともプレイしづらいテンポになってしまからだ。⑤のギター・ソロの出だしは、1オクターヴ上のハーモニクスを狙って出したプレイ。押弦位置の12 f 上でピッキング・ハーモニクスを出すわけだが、この場合、押弦位置が14 f なので、ピッキング位置は26 f 上…、つまり、フレットの無い位置となる。ノーマルなストラトなら、フロントP.U.より約1 cmほどリア寄りが、ハーモニクス・ポイントになるはずだ。また、回1~2小節目の18 f、21 f は右手で押弦するプレイ。尚、18 f、21 f を押弦中に掛けるヴィブラートは、左手主体で行なった方がピッチも安定すると思う。



50

Veces

iitar I

Buitar II

Keyboard

Bass































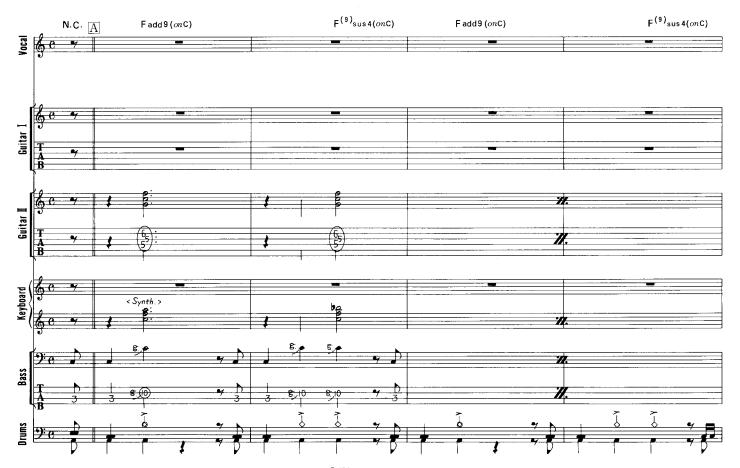
61

SENTIMENTAL STREET

センチメンタル・ストリート Words & Music by Jack Blades and Alan Fitzgerald

3rdアルバム『7 WISHES』に収録された、美しいメロディー、コード進行が印象的なナンバー。また、フロイドローズのアーム・ユニットを巧みに使いこなしたブラッドのソロ・プレイも秀逸だ。では、解説に移ろう。まず、同だが、スコア通りにプレイした場合、ギターとシンセの音量バランスによっては、多少音が濁って聴こえるかもしれない。その場合は、ギターの4弦5fを省いてしまえば、すっきりしたサウンドになるはずだ。⑤、ⓒでは、エレピが、バッキングのメインとなる。メリハリの効いたプレイにするためにも、各小節、1拍目頭と2拍目裏にアクセントを置くことを意識してみよう。尚、ⓒでのテンポの取り方を、1×と2×とで変えている点も、アレンジ上のポイントとして押さえておこう。⑥の最終小節は、必要以上に変拍子を意識しなくともOK。通常の4/4に半拍分加えただけ、と捉えてプレイしよう。⑤⑥のギター・

ソロは、とにかくアームを絡めたプレイが決め手になる。4小節目のアーム・ダウンは、左手でヴィブラートを掛けながら行なったもの。これによって、通常のアーム・ダウンより、複雑な音程変化が得られるわけだ。次の5~6小節間は、アーム・アップがポイント。2弦8fのG音をアーム・アップでA音までピッチを上げ、その状態をキープしたまま、11fへハンマリング&プリング。その後、素早くアームをリターンし、再び、同じ動作を繰り返す…、というプレイ。アーム・アップで正確なピッチを捉えられるかが、勝負の分かれ目だ。また、F最終小節のハーモニクスを絡めたプレイは、3弦3fのややブリッジ寄りで得られるハーモニクス(D音)を、2音半もアーム・アップが要求されるプレイだ。



© 1985 by KID BIRD MUSIC
All rights reserved. Used by permission.
Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan





























